

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日	平成 26 年 3 月 10 日		
所属学部・研究科	文学研究科 1年次 (留学開始時点)			
留学先大学	ハンブルグ大学 (ドイツ)			
所属学部・学科等名	Fakultät für Geisteswissenschaften (教養学部)			
在籍身分	交換留学生			
留学期間	平成 25 年 10 月 1 日～		平成 26 年 2 月 28 日	
<b>1. 渡航について</b>				
ビザについて	ビザの種類： 学生ビザ			
	ビザ申請先： Hamburg Welcome Center (外国人局)			
	取得方法, 提出書類： ドイツ入国後、Welcome Center に(1)申請書、(2)パスポート用の写真、(3)パスポート、(4)入学許可通知、(5)経済的能力を証明する書類を提出します。Welcome Center は要予約。			
	手続きに要した日数：手続きは 30 分ほどで終了しますが、ID カード (身分証明書) ができるまでは約 1 ヶ月かかります。			
その他必要な事前手続き	上記の(5)経済的能力を証明する書類は、大使館か総領事館発行のものが一番良いです。保護者が大使館 (東京) か総領事館 (神戸、大阪) に直接出向く必要があるので注意。			
出国年月日	平成 25 年 9 月 23 日			
経路	広島空港 → 成田国際空港 → ウィーン国際空港 旅行のため、ウィーンからハンブルクまでは列車を利用しました。			
現地での出迎え	無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	入寮手続きや銀行口座開設はチューターの学生が手伝ってくれました。その他のオリエンテーションは特になく、不明点は世話人の先生に連絡をとって確認しました。			
帰国年月日	平成 26 年 2 月 19 日			
経路	ハンブルク国際空港 → ウィーン国際空港 → 成田国際空港 → 広島空港			
<b>2. 留学経費について</b>				
所要経費	総額	約 1000000	円	
	内訳	渡航費	約 220000	円
		保険料	日本 : 約 80000	円
			ドイツ : 約 15000	円
		教科書代(学費)	約 30000 円	円
		宿舍費	1 か月約 40000	円
		食費	1 か月約 25000	円
娯楽・旅行費	約 300000	円		
<b>3. 授業について</b>				

1年 冬学期	平成25年10月14日～平成26年2月28日		
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	日本学科の授業と、外国人のためのドイツ語の授業(Deutsch als Fremdsprache = DaF)を履修しました。DaFの授業は基本的にB2レベル以上の方が対象ですが、それ以下のレベルの授業も語学学校で開講されており(ハンブルグ大の学生は無料)、大学の単位も付与されます。		
単位互換希望の有無	有 ※有の場合、所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること		
学術面に関する後輩へのアドバイス	日本学科の授業では、日本語を学ぶドイツ人学生と交流する機会があり、ドイツ語会話の練習になります。DaFはドイツ語の発音や文法などを基礎から学ぶことができます。また、タンデムをすることをおすすめします。		
<b>4. 生活等について</b>			
(1) 留学先の住居について			
住居の種類	大学の寮		
住居の広さ	約13㎡	同居人の有無	無
住居に附属する設備	電気、暖房、インターネット 水道、シャワー、水洗便所、台所は3人で共用		
住居費	1ヶ月当たり332ユーロ(現地通貨)		約40000円
住居を決定した方法	留学先大学の紹介		
留学先での住居全般に関するアドバイス	私の場合、フラットメイト2人(いずれも男性)とシャワーや台所などを共用しました。男女関係なくフラットメイトになり得ます。		
(2) 医療について			
1日以上入院を要する病気・怪我等を	しませんでした。		
入院した場合			
留学に当たり保険を	掛けました。		
掛けた場合	日本とドイツの両方		
掛け金は	日本:180日間73070円 補償額 死亡 1000万円 ドイツ:1か月26ユーロ 補償額 死亡 10000ユーロ		
留学前後での予防接種の必要の有無	無		
有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名			
日常的な健康について不安が	ありませんでした。		
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	利用していないためわかりません。		
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	特にありません。		

(3) 危険を感じた地域, 状況		
大学付近の路上で財布を盗難されました。知らない間にリュックサックのファスナーが開いていて、気づいて中身を確認したら財布のみ見当たりませんでした。しかし、このような話はまれで、基本的に治安は良いと思います。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
24時間営業のお店はほとんどなく、また日曜日や祝日はほとんどのお店が閉まる点に注意が必要です。		
<b>5. 帰国後の進路について</b>		
卒業予定年月	平成 27 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 27 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由		
現在の状況および今後の予定・進路等	平成 26 年 3 月現在、就職活動中です (民間企業)。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	就職活動については、ドイツからでもできること (WEB エントリー、WEB エントリーシート、WEB テストなど) があれば行いました。	
<b>6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等</b>		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
ドイツ連邦共和国大使館・総領事館	<a href="http://www.japan.diplo.de/Vertretung/japan/ja/Startseite.html">http://www.japan.diplo.de/Vertretung/japan/ja/Startseite.html</a>	ビザの取得方法について詳しく説明されています。
<b>7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)</b>		
留学中の時間はあっという間に過ぎていきます。時間を無駄にしないために、わからないことや困ったことがあればすぐに誰かに相談すべきだと思います。限りあるドイツ生活を楽しく、有意義に過ごしてください。		

## 学習の概要に関するレポート

ハンブルグ大学に留学している間の学習面について報告します。

大学の授業の開始は10月の第3週目からでした。すでに第2週目から、留学生向けの5日間程度の事前コースが無料で開講されていたらしいのですが、私は情報を受けるのが遅く、クラス分けテストへの申し込みが間に合わなかったため受講できませんでした。ハンブルグ入りするのが早かった人は、早くから情報を得て申し込んでいたようです。ハンブルグ大学では留学生向けのガイダンスや連絡がほとんどないため、留学生の間で情報を共有しなければせっかくの良い機会を逃してしまうことになります。チューターのドイツ人学生がサポートしてくれるのは銀行口座の開設や保険の契約、ビザ取得などの手続き関連のみで、留学生向けのコースの申し込みや授業の登録についてはほとんど知りませんでした。日本人だけで固まるのはよくないとは言え、有効な情報はすぐに得られるような関係づくりはすべきだと思いました。

私は日本学科で開講されている独文和訳の授業と和文独訳の授業、そして外国人留学生のためのドイツ語の授業(DaF)のうち発音の授業と発表の授業に参加しました。DaFの授業は基本的にドイツ語のレベルがB2以上の人を対象としていましたが、授業担当の先生に許可をとればそれ以下の人でも参加できたようです(私はちょうどB2でした)。日本学科の授業では、ドイツ人学生と互いの言語の細かいニュアンスや互いの文化を教え合う機会が多くあり、会話の練習にも文法の勉強にもなりました。また、DaFの授業においては、ロシア、アメリカ、チェコ、スウェーデン、ケニアなど世界各国からの留学生と同レベルのドイツ語で話す機会が得られ、ドイツ語の基礎を定着させるのに良かったと思います。これらの授業以外にも、関心のあるテーマ(文学など)を扱う授業には聴講という形で出席しました。聴講をするにもそれぞれの授業の担当の先生から許可を得る必要がありましたが、どの授業でも喜んで迎え入れてもらえました。

授業がない時間帯にはタンデムを行いました。私はチューターとしてサポートしてくれていた学生や、彼らから紹介を受けて知り合った学生、交流パーティーで知り合った学生など、合計5人とタンデムをしていました。1回のタンデムを2時間とし、1時間は日本語のみの会話、もう1時間はドイツ語のみの会話と区切ることで互いの語学力を高めました。タンデムは会話練習になるだけでなく、生活や授業での悩みや不安、不明点を解消するのにも非常に有効だと思います。時にはタンデムパートナーとタンデムの時間外で食事をしたり出かけたりすることもあり、タンデムを通じて多くの経験ができました。

HUSAプログラムの利用には、留学準備がスムーズにできたり、単位の互換ができたり、JASSOの奨学金を受けることができたりと、利点が多かったと思います。そのため自分の学習や課題に集中して取り組むことができました。また、広島大学へ留学予定の学生たちと深く付き合うきっかけとなり、新しい交友関係の構築につながった点でも良かったです。



## 生活の概要に関するレポート

ハンブルグでの生活面について報告します。

まず、寮について書きます。私の場合、寮に入れるのは10月1日以降ということでした。私は9月30日の夜にハンブルグに到着してホテルに一泊し、翌日の朝にチューターの学生と待ち合わせをして会い、寮に案内してもらいました。私の寮は **Berliner Tor** という名前で、一番新しい第3棟でした。家賃は332ユーロ、敷金が400ユーロでした（敷金と10月分の家賃は予め日本から振り込みました）。また、電車(S-Bahn)か地下鉄(U-Bahn)を使って、大学までは20分程度、ハンブルグの中心地までは10分程度で行くことができる場所にありました。寮に到着してからは管理人さんに部屋まで案内してもらい、簡単な説明を受け、正式に契約を完了させました。個人部屋で、机と椅子、ベッド（布団やシーツ類もあり）、棚、暖房は予めありました。インターネットは無料ですが、使うにはLANケーブルが必要でした（スーパーや家電量販店で購入可能です）。シャワー、トイレ、キッチン、冷蔵庫などは3人で共用でした。キッチンには電気コンロとグリル、冷蔵庫しかなく、調理器具などは自分で買うか、フラットメイトの私物を借りました。私のフラットメイトはドイツ人男性とシリア人男性の2人でしたが、両者とも親切に電子レンジや電気ケトル、コーヒーメーカーなど様々なものを使わせてくれました。私のフラットではトイレトーパーや食器洗い洗剤、手洗い石鹸なども共用し、なくなったらそれに気づいた人が買ってきていました。それから、洗濯機と乾燥機は寮の地下室にあり、有料で（2ユーロ）、24時間利用できました。

銀行口座は **Haspa** という地元の銀行で開設しました。Haspa は私たちのような外国人留学生の対応に非常に慣れており、とても親切だと評判でした。実際に私もそのように感じました。ただし、口座の維持費として自動的に毎月3ユーロ引き落とされました。

ハンブルグの街は都会で、ショッピングセンターや大型スーパー、レストランなどが豊富でした。そのためほとんど何でも簡単に手に入りました。米や醤油、味噌、カレー粉など日本の食材を売っているお店も3軒ほどありました。同時にエルベ川沿いやアルスター湖沿いの景色、そして街のいたるところにある広い公園の様子はとても美しく、目を楽しませることができる街でもあると言えます。また、ハンブルグのドイツ語にはほとんど訛りがないため聞き取りやすく、使う単語も教科書通りのものばかりでした。ときどき古いハンブルグ方言を話す方もいましたが、ほとんどの人は標準ドイツ語を話していました。

食事についてですが、私は昼食はほとんど大学の食堂を利用し、夜は自炊するかパン屋やケバブ屋などで買って食べていました。食べ物の物価は日本や近隣の国と比べると比較的安いと思います。特に旬の野菜や果物は、日本のものよりも小さくて形はよくありませんが、とても安く販売されていました。日本では見かけない種類も多いため、毎回の食事を楽しむことができました。

最後に治安について書きます。私は大学周辺の人通りの多い路上で財布を盗難されました。知らない間にリュックサックのファスナーが開けられており、それに気づいて中身を確認したときには財布だけがなくなっていました。もともと警戒してお金をあまり持ち歩いていなかったため特に困らなかったことが不幸中の幸いです。このような話はまれで、ドイツはヨーロッパの中では治安がよい方であることは間違いありませんが、日本ほどではないことを意識しなければならないと実感しました。せっかくのドイツ生活を楽しむために、日頃の安全対策は必要不可欠だと思いました。

